

リモコン草刈機

(令和5年2月作成)

事前検討チェックリスト

- ✓ 農作業安全のための指針を確認した。
- ✓ 導入予定機の重量を確認した。
- ✓ 現場までの輸送方法を確認した。
- ✓ 導入予定機が対応できる法面の角度を確認した。
- ✓ 導入予定機で草刈りできる法面の面積を見積もった。
- ✓ 導入予定機の刈り高さを確認した。

農作業安全のための指針（平成30年1月19日版）

<http://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/shishin/shishin.htm>

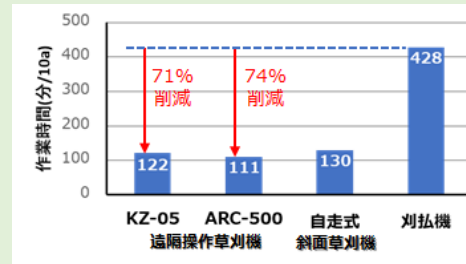
※指針等は使用時点の最新版を確認してご活用ください。

運用中に発生したトラブル事例

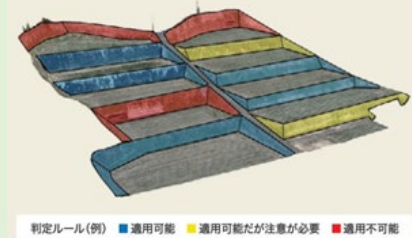
- 障害物で機械が転倒した。
- 車体が重く大きいため、運搬が大変なことや傾斜地で転倒、水田内に侵入した場合など1人では対応できない課題がある。
- 雨天時に作業できない。軽微な雨でも故障した。



導入効果



適用可能マップ



判定ルール(例) ■ 適用可能 ■ 適用可能だが注意が必要 ■ 適用不可能

- 遠隔操作草刈機 2 機種 (ARC-500, KZ-05) の作業時間は、刈払機に対し 71～74% 削減。

- ドローンを利用して遠隔操作草刈機が適用可能な法面マップを作成可能（西日本農研センター）。

出典：

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/smart_agri_pro/pdf/pamphlet/r1/R1_1-24.pdf

農研機構西日本農業研究センター
(e-mail : smt_jimu@ml.affrc.go.jp)

この他の導入事例は成果ポータルのリモコン草刈機のページ

https://www.naro.go.jp/smart-nogyo/seika_portal/gijutsu/portal06.html をご覧ください。



導入効果が現れない例

事前に適用可能な畦畔の検討が不十分だったため、運搬の手間のわりに作業面積が伸びなかった。